立花山登山客の意識・行動調査
－登山道とまちなみの活性化のために－

九州産業大学　学生会員　野田　和哉　　九州産業大学　正会員　山下　三平
九州産業大学　非会員　松野尾　仁美　　九州産業大学　学生会員　安武　陸

1. はじめに

福岡市東区に隣接する福岡県糟屋郡新宮町は、国道 3 号線で東部と西部に分かれている。西部では商業施設等が多く立地し都市化が進んでいる。一方、東部は農村の風景と豊かな自然が残っている[1)]（図－1)。東部地域にある立花口区は、立花山の麓に位置し、主要な登山口がある。また、立花口区には古民家が数多くあり、風情ある町並みを見ることができる（図－2)。しかし現状では、登山客をもてなす場所がなく、その魅力を活かしきれていない。

そこで本研究は、立花山登山客の意思と行動を調べ、地域活性化に役立つ知見を得ることを目的とする。

図－1　新宮町立花口区

図－2　立花口区古民家

2. 研究方法

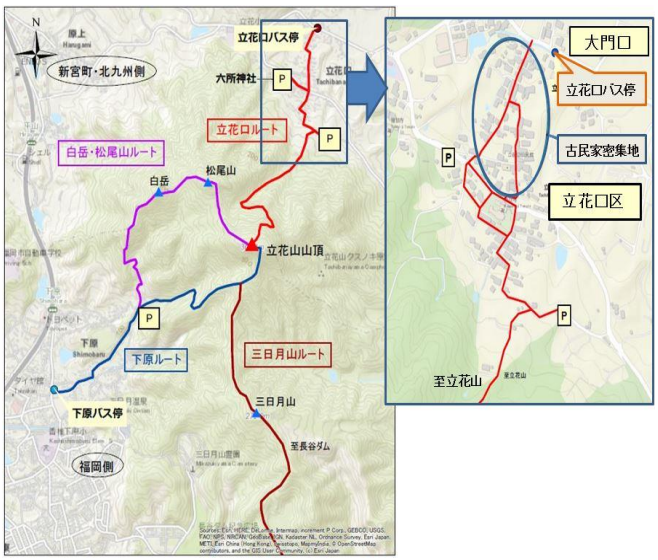
立花山は、年間約 6 万人が訪れる山である。特に、行楽シーズンである 10－11 月は 6 千人以上が訪れる。そこで立花山登山客を対象に、平日と休日にそれぞれ 1 回ずつ、計 4 回のアンケート調査を山頂で行った。調査時間は、基本的に 9:00～15:00 とし、雨が降ってきた場合、山頂で 1 時間待機し、登山客がいなければ調査を打ち切った。

休日は平日の 2 倍以上の登山客が訪れていた。また、悪天候の日でも（11/25)、多くの登山客がみられた（表－1)。

表－1　調査詳細

	10/21(月)	10/26(土)	11/25(月)	11/30(土)
天気	晴れ	晴れ	曇り後雨	晴れ
時間	9:00～15:00	9:00～15:00	9:00～13:00	9:00～15:00
調査員数(人)	4	3	1	1
登山客数(人)	100	183	41	248
依頼数(人)	50	85	20	57
男性	30	39	9	35
女性	20	46	11	22
依頼率(%)	50	46	49	23

立花山は登山口が 3 つ、登山ルートが 4 つある（図－3)。立花口区の古民家が密集している箇所は図－3 の楕円で囲んだ部分である。この「立花口ルート」の最下端・大門口にはバス停があるものの、自家用車のための駐車場がない。



図－3　立花山登山道（ArcGIS により作成）

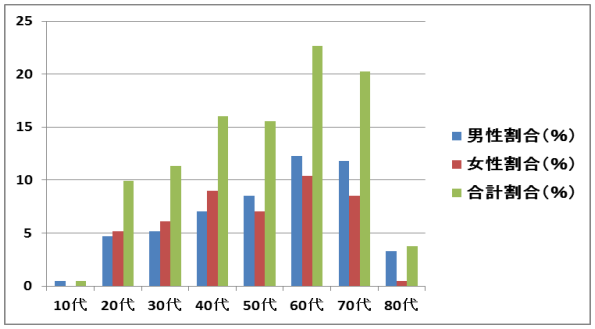
調査項目の一覧を表－2 に示す。基本的に択一方式にし、満足か不満足の理由を自由記述とした。まず回答者の属性に関する項目、つぎに立花山の認知、移動手段、目的、頻度、同伴者、登山口に必要なもの、および山の魅力について尋ねた。本稿では、特にルート選択に関する分析を行う。

表－2　調査項目一覧

調査項目	調査内容
回答者属性	回答者の性別、年齢、職業、住まい
知った経緯	立花山をどのようにして知ったか 元々知っていたのか、後から知ったのか 後から知った場合、どのような情報源から知ったのか
回答者の移動手段の現状	登山口までどうやって来ているのか ①自家用車 ②公共交通機関 ③徒歩 ④その他 *②は、どの登山口付近にも電車の駅はないため、電車とバスは同じ項目にする
誰と、どれくらいの頻度で、どのような目的で来たのか	・誰と（個人、友人、団体、家族） ・頻度（初めて、週1回以上、月に1回程度等） ・目的（登山、バードウォッチング等の選択肢を用意し、複数回答可とする）
登山口、登山道に何が必要か	サービスのニーズ（登山客に必要なサービスを整備することで対応可能なもの）を中心として、複数回答可とする
立花山のどこに魅力を感じているか	まず、現状の立花山に対してどう感じているか、択一式の回答を用意し、その理由を自由記述にする

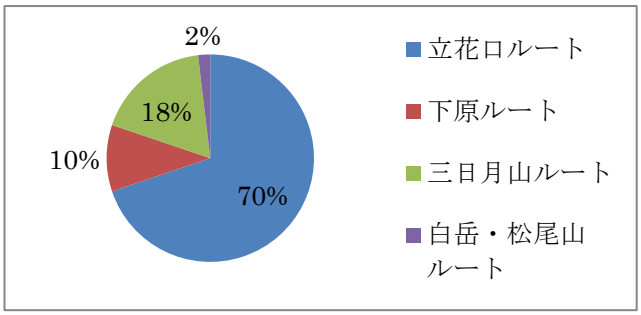
3. 調査結果

図－4 は登山客の年齢と男女の構成を示したものである。60 代以上の高齢層が多い。また、男性の方が高齢であることがわかる。



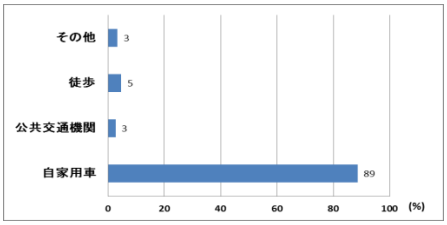
図－4　被験者の年代別割合（N＝212）

古民家が沿道に並ぶ立花口区の登山道（立花口ルート,（図－3））を利用する登山客は、70%（148 人）であり、他を大きく上回っている（図－5）。しかし、その下端には駐車場がなく、自家用車は途中の二つの駐車場しか利用できない。



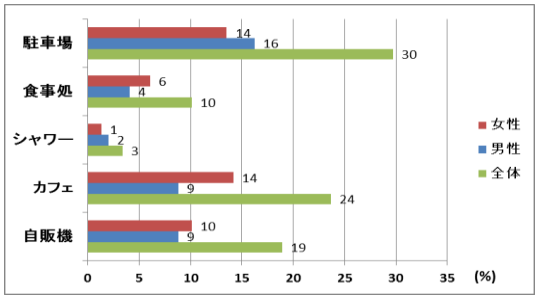
図－5　登山口別利用者割合（N＝212）

登山客の住まいから立花口までの移動手段は自家用車の割合が圧倒的に高く、89%である（図－6）。上述の立花口ルート最下端の駐車場の不在を考えると、途中の区間を登山客が通らない傾向が推察される。



図－6　移動手段割合（N＝148）

登山口付近に何があったらよいか、という質問に対しての結果を図－7 に示す。最も割合が多いものは「駐車場」で 30%である。つぎに多いのは「カフェ・休憩所」である。上述の二つの駐車場も、土日は満車になってしまうため、増設が必要である。立花口の最下端・大門口とその駐車場との間の古民家の有効活用のためには、大門口への人々の誘導、駐車場の整備は特に検討すべき課題といえる。



図－7　登山口のニーズ（N＝148）

4. おわりに

本研究では、立花山登山客にアンケート調査を実施した。登山客のルート選択について、以下のことがわかった。

1）立花山登山客のうち、70%は立花口区のルートを利用している。

2）古民家が密集している箇所は登山客の目に触れていない。

3）登山客の立花口に対するニーズは駐車場が最も多い。

以上より、立花口区に新たに駐車場を増設する必要があり、増設する場合、大門口側につくることで、古民家密集地の中を通る導線を確保し、古民家が登山客の目につくようにすることが重要である。

参考文献

1)新宮町まちづくり－新宮町ＨＰ
https://www.town.shingu.fukuoka.jp/